

石川県小松市の豪雨に対し、災害応急用ポンプ貸出し

7月29日、石川県小松市では観測史上最大の199.5mm（1時間降水量：最大46.5mm）の激しい豪雨により、市内北部の一級河川「梯（かけはし）川」の水位が氾濫危険水位を越え、同日17時には、市内の約4,500世帯、約15,000人に避難指示が出されました。

このようななか、梯川に隣接するJA小松市のカントリーエレベータ付近で湛水被害が生じたことから、JA小松市から土地改良技術事務所に対して災害応急用ポンプの貸出し依頼があり、災害用応急ポンプ250（陸上）×2台の貸出作業を行うとともに、現地に職員2名を派遣しポンプの据付・運転等にかかる技術支援を行いました。このポンプによる排水は、翌30日の7時まで行われました。

また、翌31日には、市内「木場潟」付近の農地が湛水し、小松市より、新たに災害応急用ポンプの貸出し依頼があり、土地改良技術事務所では同日午前中に災害用応急ポンプ250（陸上）×2台の貸出を行うとともに、現地への職員2名の派遣を行い、ポンプ据付・運転にかかる技術支援を行いました。ポンプ排水は翌8月1日早朝まで行われ、小松市役所及び土地改良区職員とともに、土地改良技術事務所職員が水位の低下を確認しました。

今回の豪雨に伴う湛水被害に対しては、緊急かつ的確な対応が不可欠であったこと、及び貸出先におけるポンプの安全な据付・運転が困難と判断されたことから、災害用応急ポンプの貸出しに加え、職員を現地に派遣し技術支援を行ったものです。



ポンプ格納庫での貸出作業状況



現地技術支援（操作指導）



カントリーエレベータでのポンプ運転



木場潟付近農地でのポンプ設置